

谷間のゆり

「時が満ちるに及んで」

女性部委員長 大江なおみ（堺キリスト教会牧師）

『こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。』

エフェソ 1 章 10 節(新共同訳)

2020年私たちは今まで想像ができなかったことを体験し、自分の計画でなく神様にへりくだって心を合わせ歩いていくことに導かれているように強く思われています。今年の計画でさえ予想がしづらい今、また今後の世界がどう変化するかも想像が難しい状況の中ではありますが、一つ言えることは私たちの素晴らしい神様の御計画はよりいっそう力強く進んでいくということです。私たちの希望の光であるイエス・キリストにさらに目を注ぎ、心を合わせ、さらに合わせ、また合わせ・・・主のご計画に力強く導かれていきましょう。

① 自分の計画でなく神様の計画がなされることに心を合わせる・・・

神様はモーセを召し律法を与え、幕屋の作り方もどれほど細かい指示によって民を導かれたかを思い出します。それは細部に至るまでサイズや素材、祭具にまで深い意味があり、人間の考えや知恵によっては知ることのできない深い神の奥義がありました。ここは、面倒だから自分の判断でやろうとできるものではなく、へりくだり忠実に神様のやり方に合わせるにより建て上げられました。

今、そのように神様に今まで以上に心をつくし丁寧に近づく時に来てるのではないのでしょうか。そして神様の御心が最も良いことであることに信頼する歩みが本来の私たちの歩みではないのでしょうか。

冒頭の御言葉の次の節（エフェソ 1 章 11 節）には「神様は御心のままにすべてのことを行われる方」とあります。私たちの計画はなかなかその通りにいかないことの方が多いですが、主は私たちに計画を持っていてそれを成し遂げられるように導いて下さるお方です。この大きな力ある主に、愛をもって導いてくださる方に、信頼して心を合わせていきましょう。

② キリストを頭とする者として・・・

キリストは私たちの罪を赦し、弱さを全てご存じで愛し導かれる方です。ですからそのままの私たちがキリストの愛を疑わず・・・、こんな自分を丸ごと愛して下さる恵みを 100%受け取って歩みましょう。これはとても大切なことだと思います。

そしてキリストを頭とする者なら一つに導かれていくことを信じます。教派、教団、男女、身分に関わらずキリストを頭としているならです。

人間関係の問題を解決することは自分の力ではできないことばかりであることをつくづく体験します。しかしキリストに頼って、信頼して歩むことにより主に導いていただきましょう。冒頭の聖句はやがて訪れる御国のことを言ってるかもしれませんが、現在進行形の主の業であることも信じます。自分の思いや感情のまま生きていたら、混乱と失望しかないでしょう。しかし御霊に導かれるなら私たちは愛し合うことに、1つになることに導かれていくのです。

人を愛する難しさは、お互いに正しい基準が違い、相手を理解しないまま自分の考える愛によって愛そうとすることにあるように思います。扇風機のプラグをちゃんとコンセントにはめない限り電流が流れて風を起こせないように、相手を理解してはじめて電流が流れます。

主を信頼して委ねることに土台を置かないと、実践するのはなかなか難しいことです。主の助けにより新しいことを教えていただきながら、小さな愛の電流が流れるその恵みを喜びたいと思います。

そしてこんな時だからこそ、福音を更にいろいろな方法で宣べ伝えていきましょう。

今回は、集まらない今の状況にあってお互いに励まし合い、一つ思いで祈り合うためにも女性部から新聞を発行し、証しを掲載しました。栄光在主

コロナ禍中であって。。。それぞれのお証し

世の中コロナウイルスについての話題で持ちきりの中、クリスチャン4年目の私は神様を知って生きる事の幸いを改めてひしひしと感じていました。目に見えず、避けようのないウイルスの蔓延も、全て神様の御手の中。神様がこの状況を許可されているのだから、必ず何かある！と期待にも似た気持ちで日々を過ごしていたところ、やってきた自粛要請による長期休業。これは神様と親密に過ごすチャンス！と思い3日間の断食を決行。日々の日課に囚われる事なく存分に神様と過ごせる贅沢な時間の中で、ふと、自分の思いがここ数年いつも自分の内側に向いていた事に気づかされました。イエス様に似た者へと変えられたい！とずっと望んできたけれど、自分の内には神様に喜ばれないものがまだまだ沢山渦巻いていて。どうすればこれらを除く事ができるだろう？と、考えている内に自分の内の古い性質にばかり目を向けて過ごしてきた、と気付いたのです。どうりで神様の御心がわからなくなるはずです！神様より自分の古い性質に目を向けながら「神様どうしたらいいですか？」と何度祈ってきたことでしょうか。目を向けるべきは自分では解決できない自分の内側ではなく、神様御自身だ！と、わかった途端、肩の荷が下り随分と楽になりました。自分の内に古い性質が残っているのはもう仕方がない！でもそこに目を留めるのではなく、神様に目を向けるなら、その内側への解決は必ず上から与えられるから、今日も神様を見上げて、この先どんな状況になっても全能の神様の存在を喜ぶ事を選びとっていきたいです。

神愛基督教会 姉妹

中国武漢ではじまった新型コロナウイルスとともに2020年がスタートし、寒い冬も花の春もあつという間に過ぎ去り、早や気がつけば暑い夏が近づいています。

私は新聞の集金の仕事をしていて、毎月270名ほどの多くの方にお会いしています。集金時には現金を取り扱うため感染リスクも高く、マスク等をされておられないお客様とお話をする機会も多いため、70代の私は仕事を続けることに恐れがありました。また、家族からも仕事を続けることを心配されました。

新型コロナウイルスの性質もまだよくわかっていない状態で、急に仕事を辞めることは出来ず、コロナ禍中であつてどのようにするべきか・・・と悩みました。しかし、私には主を信頼し、お委ねして祈っていく道が与えられていることに気付かされました。

教団からの祈祷課題であるCOVID-19「共同の祈り」は、日々、祈り続ける中で私の指針となりました。4月28日の「主は私たちの錨」詩篇46:2-3『それゆえ、われらは恐れぬ。たとい地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだつても、その水かさが増して山々が揺れ動いても。セ』との御言葉があり「神に不動の信頼を置き、完全な平安に錨を下ろし、恐れに飲み込まれてしまうことがないように。」と祈ったとき、私は主の守りを確信し、心に平安をいただくことが出来ました。集金という感染リスクの高い仕事ではありますが、その中であつても少しの恐れや不安を感じることなく、感染対策もしつつ、仕事を行い、毎日を無事に健康に過ごすことが出来ていることを心から感謝いたします。

また第二波、第三波も予想されますが、祈りのうちに神様からの知恵をいただき、感染対策を行い注意して毎日を過ごしていきたいと思えます。そして今、再び会堂に集い、兄弟姉妹と共に皆で心を合わせて主を賛美する素晴らしさを再確認できて感謝いたします。

岸和田キリスト教会 姉妹

主人のことについてお証させていただきます。

主人は86歳で糖尿病の持病をかかえておりますが、私たちは無事に過ごせていることを感謝しておりました。しかし、昨年10月22日、寝てばかりで起きようとしぬ主人に不安を覚え、看護師である孫嫁を頼り電話をしました。すると「すぐに救急車で病院に行つて！」と言われ、一人でオロオロしながらも夜遅くに病院に行くこととなりました。翌日主人に会いに行くと、ICUの部屋に移され、酸素マスクをつけられ管をいっぱいつけられた意識のない主人がいました。主治医からあと2、3日が山ですと言われ、信じられない気持ちになりました。娘や孫に知らせると、娘たちは喪服を持って飛んで来てくれました。

救急搬送されてから5日目の朝、主人に会いに行きましたら、主人がベッドにいません・・・私は悪い予感がしました。しかし、次の瞬間、看護師さんが来られて、今朝早くに一般病棟に移りましたよ！と言われました。私は「主よ～」と叫んだと思えます。その時、私は弱いですが・・・みんなに祈られていることを思い出し、なんと有難いことか！と感じました。

それから主の憐みで主人の回復はさらに進んでいきました。先日の6月14日の早朝、突然主人が「教会に行くぞ！」というので私の方がびっくりしました。遠い中、電車とタクシーを乗り継いで教会に行き礼拝に参加することができました。主人の時々起こるめまいを心配しながらも、あの長～い難波の駅のコンコースも頑張つて歩きました。コロナ禍で再開されたばかりの教会は、現在リフォーム中で新しくなつており神様の祝福を感じました。皆と共に礼拝出来た幸せ。語られる主の御言葉と神を讃える賛美に涙が溢れそうになりました。「主の山に備えあり」神様の愛に感謝！

堺キリスト教会 姉妹